

2024年度 入学式 学長式辞

新入生の皆さん

御入学、おめでとうございます。

宮城学院女子大学の教職員一同、皆さんの御入学を心から御祝いし、歓迎いたします。

皆さんは今、さまざまな思いを抱いておられることと思います。その思いをあえて短い言葉にすれば、それはおそらく、「期待と不安」に尽きるのではないのでしょうか。確かに、この桜ヶ丘キャンパスでこれから新しく始まろうとしている大学生活は、皆さんにとって、勉学生活を中心に全く未知の世界であり、そうであるが故に新鮮で、面白そうで、さまざまな期待に応えてくれる、そんな素敵なおもので満ち溢れているようにみえることでしょう。

しかし、その逆に、もしかすると、授業も想像より難しいかもしれないし、勉強もしんどくなるかもしれない。先生や友人たちとの出会いもうまくいかどうかわからないし、自分がどうなっていくのか、自分の大学生活に何が起こるのか予想がつかない。いいしれぬ不安も胸中を駆け回っているかもしれない。確かに、一般的に考えてみても、「期待」は同時に「不安」と抱き合わせです。

そんな皆さんに、まずもって申し上げておきます。

どうか、皆さん一人ひとり、自分に本当の自信を持って大学生活に臨んでください。健全な意味で自分に自信を持つことは、必要不可欠なことなのです。

「自信」とは、自分を信頼するということです。人間は、自分の心の深いところであるがままの自分を肯定し、その自分を信頼しないと、本当の意味で「自分で自分の人生を生きていく」ということはできない。前向きに生きていくためには、現在の自分を「これでいいんだ」と肯定することが、どうしても必要なのです。

皆さんは、それぞれの思いや事情を背負いながら宮城学院に入学してこられたと思います。それは、必ずしも現在の皆さんをそのまま「これでいいんだ」と肯定してくれるものではないかもしれない。いやむしろ、自分が評価され、選別され続ける受験体制の中に身を浸し続ける中で、自然、優越感や劣等感の間を揺れ動き、自分自身をそのまま信頼する、肯定することができなくなってしまう、そんな場合が多いのではないのでしょうか。私はそんなふうに思います。

実は、これまでも皆さんはしばしば「自信を持て」という言葉を聞いてきたはずですが。しかし、実は、その言葉のほとんどは、自信を持つために実力をつける、という条件付きで語られてきた言葉だったのではないのでしょうか。それは、皆さんにとってとてもしんどいことです。なぜなら、本当の意味での「健全な自信」ではないからです。私はそう申し上げたい。

宮城学院は、皆さんの人生にとって最も大事なものを、最も必要なものを提供することをミッションとしています。それは、キリスト教の福音です。

神様という泉からこんこんと湧き出る命の水、救いの恵みのことです。福音は、神様が例外なしに皆さん一人ひとりに一方的に御与えくださる掛け値なしの尊い恵みです。そしてそれは無条件で皆さんの存在を肯定してくれる、比類ない恵みなのです。

皆さんの多くは自分で選択して宮城学院に入学してきたと考えておられると思います。しかしあえて申し上げますが、実は、皆さんは一人ひとり、神様によって選ばれ、神様から大きな恵みをいただくために、この宮城学院に入学してこられた方々なのです。なぜそんなことが言えるか、というと、宮城学院はその働きに仕えるために神様のご計画の中でわざわざ設立された学校だからです。

宮城学院女子大学の教育目的は、建学の精神に示されています。

それは「福音主義キリスト教に基づいて学校教育を行い、神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成すること」というものです。それは、「神を畏れ(敬い)、隣人を愛する」という現在のスクール・モットーに集約された旧約聖書の十戒の精神に他なりません。

無宗教の精神風土をもつ日本の社会では、このような「神」を語ることに違和感を覚える方も少なくない。しかし、それを承知であえて申し上げるのですが、聖書は、私たちに、人間が人間として自律的に生きるためには、創り主である神の前に立ち、神を畏れ敬うことが必要不可欠であることを教えます。神はこの私を、今あるそのままの私として肯定し、無限の愛と義をもって慈しんでくださる。隣人もまた、神が、私と同様に慈しんでくださる存在だからこそ、私たちもまた神と同じように愛し仕える存在なのだ、だから愛し仕えることが無条件に良いことなのだ、そう聖書は教えます。

実は、不思議なことに、私たち人間は、実際にそんな考え方、生き方を実行してみる時、惑うことなく自分自身の人生を、本当の意味で自信を持って、前向きに歩いていくことができるようになるのです。

今、私たちを取り巻く現代という時代は実に厳しい状況にあります。ある国々ではとめどなく戦争が続き、私たちの周辺でも戦争のリスクが叫ばれ続けます。日本のみならず世界の経済も、大きなところで停滞の時代に向かおうとしているように見えます。

皆さんは、これからそのような時代の中で自分の人生を生きぬいていかざるを得ない。私はそれを否定しません。しかし、恐れる必要はない。自分が自分であることを確信させ、わたしたちに前向きに生き生きと生きていく力を与えてくれる方がおられます。それが、キリスト教における神というお方なのだ、そう私は確信しています。

ホームページなどでもご覧になっておられることと思いますが、宮城学院女子大学が社会に対して掲げるタグ・ラインは「愛のある知性を！」です。それは、神様の愛と義と慈しみに裏打ちされた知性、教養のことです。そのような知性と教養を身につけることによって、私たちは、この不安な時代を、自信と希望を持って、それ故、将来を期待しながら前向きに歩いていくことができます。

毎年申しあげることですが、新入生のみなさんにお願いが三つあります。

- ① 大学でしっかりと勉強してください。学問的・科学的な知恵を軽んじることなく習得し、しっかりとした判断力を得る学びをしていただきたい。
- ② ぜひ、一日一回、聖書を手にとって読みすすめていただきたい。「あなたの若い日にあなたの作り主をおぼえよ」、という言葉はまさに真理です。
- ③ 毎週、月曜、水曜、金曜日のお昼に行われる大学礼拝に出席していただきたい。レポートがあってもなくても、出席していただきたい。

続けているうちに、きっと必ず、皆さん一人ひとりを肯定し健全な自信へと導いてくださる御言葉やメッセージに出会うことができます。それは、皆さんにとっての一生の宝となるはずです。

保護者の皆様、本日は、御子様方と一緒にこの宮城学院の入学式へと足を運んでくださり、本当にありがとうございます。このようにして、御一緒に、御子様方の入学式を御祝いできますことを心から感謝するものです。

本日は、御入学、本当におめでとうございます。
これをもって式辞とさせていただきます。

2024年 4月 4日
宮城学院女子大学
学長 長谷部 弘